



# 総合周産期母子医療センターだより

平成 27 年 12 月号

2015 年 12 月 15 日発行 (No.120)  
 山口県立総合医療センター  
 〒747-8511 山口県防府市大字大崎 77 番地  
<http://www.ymghp.jp>  
 tel:0835-22-4411 (代表)

## トピックス

### 妊娠・授乳と薬に関する研修会を開催しました



妊婦さんは薬を飲んではいけないという言葉に耳にされる方も多いと思います。ところが実際は、薬そのものの危険度が高いと評価される薬はごく一部です。一方、絶対に安全な薬も少なく、適切な使い方が求められます。妊娠中や授乳中の薬の危険度は、薬そのものの危険度だけでなく、使用する時期(妊娠初期なのか、後期なのか)や、使用期間、使用量、使用経路(内服、注射、外用)、併用する薬等によって違ってきます。特に、慢性疾患や精神疾患の患者さんの妊娠においては、服薬中止が妊産婦の健康に影響を及ぼすこともあり、慎重な対応が必要になってきます。

そこで、当センターで毎年周産期医療の向上のために開催している周産期研修会において、今年度は妊娠や授乳を考えた薬の選択について理解を深めるため、山口県産婦人科医会、山口県周産期医療研究会の後援のもと、11月3日(火・祝)に「妊娠・授乳と薬」と題して当院総合周産期母子医療センター長の佐世正勝医師が講演を行いました。県内各地の医療機関から産婦人科医師、助産師、看護師、薬剤師等、県や市町の行政機関から保健師等、合計 51 名の参加がありました。

講演では、まず、薬に関係なく先天異常を持って出生する確率、身体的・精神的障害をもって出生する確率や死亡する確率から、各疾患別に使用できる薬、使用できない薬の説明、最後に「胎児・新生児の気持ちになって処方を考え」て、投与してはいけないクスリの把握、「禁忌」だけど投与することがあるクスリ、「有益性投与」だけど投与しないクスリ、妊娠前から始める必要があるクスリ、得意なクスリを準備しておくことが大事だという話がありました。

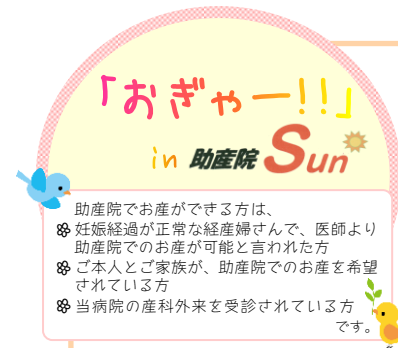
終了後のアンケートでは、「使って良い薬、だめな薬が分かり易かった。出現率何%等具体的な例もあり勉強になった」等、実臨床、経験に基づいた薬剤の話は分かり易く、即実践につながるため参考になったという意見を多数いただきました。今後、妊婦や胎児・新生児に寄り添った服薬指導等の業務に役立てていただけると期待されます。

少しでも不安や心配がある妊婦さんは、独自で判断せず、ご自身や子どもさんの健康のためにも、かかりつけの産婦人科医師や薬剤師にご相談され、適切な服薬をお勧めします。

母子保健室 大場、笹井



講演の様子



助産院でお産ができる方は、  
 ※ 妊娠経過が正常な経産婦さんで、医師より助産院でのお産が可能と言われた方  
 ※ ご本人とご家族が、助産院でのお産を希望されている方  
 ※ 当病院の産科外来を受診されている方です。

都合により掲載は控えさせていただきます



### センター稼働状況

分娩数	49件	緊急帝王切開	3件
母体搬送	7件	NICU稼働率	73.6%
新生児搬送	0件	MFICU稼働率	100.0%

(平成 27 年 11 月)

### 「いい子にはプレゼントじゃ」



### 編集後記



もうすぐクリスマス。今年は初めてのリース作りにチャレンジしました！試行錯誤しながら何とか完成。家の中に手作りのインテリアがあると何だか心が豊かになりますね。2015年もおと少し。何かと忙しい毎日ですが、体調管理に気をつけてお過ごしください。  
 (T.O☆N.S☆Y.M☆K.H.)



周産期センター  
 キャラクター  
 マミー&メイ